

**折尾地区総合整備事業に係る公共事業再評価に関する検討会議
及び市民意見を踏まえた市の対応方針について（報告）**

折尾地区総合整備事業については、平成 16 年度の事業着手以降、10 年以上が経過し、平成 37 年度の事業完了に向けて折り返した。事業進捗の一方で、人件費や資材単価の高騰をはじめとした社会情勢の変化等に伴う事業費の見直しなど、当初計画に変更が生じた。・・・**参考資料**

そのため、今年 4 月から公共事業再評価を実施し、5 月 16 日の公共事業再評価に関する検討会議（外部委員会）において、変更計画どおり進めていくことについて『異論はない』との意見をいただいた。

この度、公共事業再評価の結果等に対する市民意見を募集したことから、市民から寄せられた意見及びこれらを踏まえた市の対応方針について報告するもの。

1. 市民意見の募集・結果について

(1) 募集期間

平成 29 年 6 月 6 日（火）から平成 29 年 7 月 5 日（水）まで

(2) 意見提出の状況

提出者数と意見数 7 人・33 件

(3) 提出された意見の概要及びこれに対する本市の考え方・・・**資料 1**

- | | |
|------------------|--------|
| ① 事業内容に関する意見 | 28 件 |
| ○事業の早期完成について | (2 件) |
| ○駅やホームの設備等について | (9 件) |
| ○工事期間中の利便性について | (5 件) |
| ○地元住民等への意見聴取について | (2 件) |
| ○駅周辺のまちづくりについて | (10 件) |
| ② その他の意見 | 5 件 |

2. 市の対応方針について

『変更計画どおり事業を継続する』

提出された意見の概要及びこれに対する本市の考え方

(対象事業:折尾地区総合整備事業)

No.	意見数	意見の概要	本市の考え方
1. 事業内容に関する意見(28件)			
(1) 事業の早期完成について(2件)			
①	2	工事費の増額については、折尾の町なかを工事しているので仕方ない面もあるかと思うが、今後は、工事費を節約しながら少しでも早く事業を完成させ、使いやすい折尾駅にして欲しい。	今後も、連続立体交差事業をはじめとする折尾地区総合整備事業を、工事費等の節減に努めながら、確実に進捗させ、新たなまちづくりが一日でも早く実現するよう、全力をあげて取り組んでいきます。
(2) 駅やホームの設備等について(9件)			
①	2	バリアフリー化を進め、全ての人が利用しやすい駅や駅前広場にする等、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進めて欲しい。	今後も、「住みやすく、魅力的で、にぎわいのあるまちづくり」を目指し、バリアフリー・ユニバーサルデザインを推進していきます。
②	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学園都市の玄関口に相応しいデザイン、歴史や文化を伝承することで、まちのシンボル性やシビックプライド(市民の誇り)を高めて欲しい。 ・筑豊本線の線路跡に本物のレールを活用したモニュメントを設置して欲しい。 ・高架下の通路と高架側面のデザインを赤煉瓦のトンネル風にして欲しい。 ・折尾の観光・歴史遺産を紹介した案内板を3番ホームの防風スクリーンと手すりの間に設置して欲しい。 ・日本初立体交差である折尾駅の歴史遺産を活用して欲しい。 	<p>新駅舎や駅前広場は、まちの玄関口に相応しく、シンボル性の高いデザインにすることが重要と考えており、ご意見については、法令や保守管理の問題も考慮しながら、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>折尾駅舎の歴史を後世に伝えるため、構造や部材等の調査を行い、記録等を整理、保存していきます。</p>
③	1	立体交差駅舎の特徴・外観を左右アンバランスにして欲しい。	新駅舎にシンボル性を持たせること、駅舎左右の高架との調和を図ること、アンバランスとする機能的必要性がないことから、新駅舎のデザインは左右対称として設計を進めています。
④	1	駅舎の建設にあたり、市の負担があるのであれば、使用方法について調整して欲しい。	駅舎の建設費については、自治体の負担がありますが、それは鉄道の高架化に伴い必要となる駅機能の移転についての負担となっています。そのため、駅業務以外の使用については、駅業務の支障とならない範囲で、鉄道事業者が判断することになります。
(3) 工事期間中の利便性について(5件)			
①	4	鹿児島本線の仮線切替が行われたが、従来よりも北口改札からの距離が遠くなったこと、ホームの位置が高くなり階段数が増えたこと、階段幅が狭くなり、ラッシュ時には混雑すること、などから、利用者の利便性や快適性は逆に失われたように感じる。工事完了までには、エスカレータの設置も含め、改善して欲しい。	工事期間中は仮通路の通行等、ご迷惑をおかけしますが、最終的には、分散していたホーム、改札口の集約、エレベータ、エスカレータの設置などにより、駅の利便性や快適性を向上させていきたいと考えています。なお、新しいホームのエスカレータは、筑豊本線が高架化され次第、各ホームに設置する予定です。

②	1	折尾駅の送迎専用のスペースが少ないので、改善して欲しい。工事が完了するときまでには、駅の近くに送迎専用の駐車場を整備して欲しい。	工事期間中は工事スペースを確保するため、送迎専用スペースが少なくなるなど、ご不便をおかけしています。最終的には、ピーク時でも送迎がスムーズにできるように検討していきたいと考えています。
(4) 地元住民等への意見聴取について(2件)			
①	2	住民・NPO・学生、子育て中や介護中の方、障害を持つ方などの意見や声を聴き、参考にしたまちづくりをして頂きたい。	今後も、様々な立場の方から幅広く意見を伺いながら、まちづくりを進めていきます。
(5) 駅周辺のまちづくりについて(10件)			
①	2	堀川沿いの飲食街を統一感のある街並みにし、風情ある景観を観光資源として残して欲しい。	堀川沿いの飲食街の風情ある景観の再生については、地域の意見を踏まえ、どのような案が描けるのか、地権者の意向を伺いながら、市も一緒になって検討していきたいと考えています。
②	1	折尾警察署跡地のマンションは、折尾の市街地にとって中心的な建物であり、折尾の顔だと考えている。個別の民間建物は所有者の問題とするのではなく、まちづくりととらえ、多目的トイレ等のバリアフリー対策が行われるように、指導・サポートして欲しい。	折尾警察署跡地の店舗複合型マンションは、折尾のリーディングプロジェクトとして、着実に進捗が図られるよう民間事業者にはたらきかけています。マンションに整備される店舗や地域の方も利用できる多目的ルームについては、法令に従いバリアフリー化されることとなっています。
③	1	日吉台方面から折尾駅に向かい通勤する人が多いので、日吉台方面から駅に入れるように、日吉台光明線沿い(折尾四丁目、五丁目付近)に入口を設置して欲しい。	当初改札口が3箇所に分散され、わかりづらく、乗換えが不便だったため、新しい駅では、将来の北口駅前広場に面した1箇所に集約する計画となっています。
④	1	八幡図書館折尾分館(折尾こどもと母のとしよかん)を、駅前という利便性の高い場所で存続させて欲しい。また、折尾は学生が多く図書館の需要は高いため、機能を拡充して欲しい。	八幡図書館折尾分館(折尾こどもと母のとしよかん)については、折尾駅周辺などに移転することとしており、ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
⑤	1	福岡銀行付近の新々堀川を切り替えた部分に蓋をし、高架橋の下と一体のイベントなどができる広場にして欲しい。	新々堀川を切り替えた部分については、今後、どのように利用していくか検討していきたいと考えています。
⑥	1	ねじりまんぼ(西鉄電車赤煉瓦高架橋)を活かした公園づくりを行うため、公園の形状を変更して欲しい。	当該公園の形状については、事業計画によって決定し、これに基づき周辺事業に着手しているため、計画どおりに進めていきたいと考えています。
⑦	1	遠賀川疏水碑、岡山直道頌徳碑を折尾駅周辺に移設して欲しい。	当該記念碑の移設先は、所有者等、関係者の意向を確認しながら決定するものであり、現在、関係者と移設に関する具体的な協議を行っているところです。

⑧	1	福工大前駅の福岡市和白地域交流センター(コミセンわじろ)のような施設を高架橋に隣接して建てて欲しい。	本市では、公共施設マネジメント実行計画をもとに公共施設の再配置等を進めることとしており、ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
⑨	1	堀川運河沿い(折尾駅前から河守神社)に遊歩道を整備して欲しい。	区画整理事業区域内の堀川沿いには4~10mの道路を整備する計画です。その中で、折尾駅前から東筑橋の区間については、沿線の土地利用から車を通す必要がある区間もあるため、今後、地権者や交通管理者等と協議しながら道路形態を検討していきたいと考えています。また、東筑橋以南の区間については、区画道路(6m)として整備を行う計画です。
2. その他の意見(5件)			
①	3	折尾駅周辺にビジネスホテルやスーパーマーケットを誘致して欲しい。 駅構内にテナントスペースを設置し、駅ビルの施設として欲しい。	折尾駅の構内や周辺の土地については、JR等の個別の権利者が活用するものであり、様々な民間開発が進むよう、市として折尾の魅力や事業のPRに努めていきます。
②	1	福岡方面への高速バスを誘致して欲しい。 福岡方面へのアクセスの選択肢が広がることを望む。	バスの運行ルートやダイヤについては、利用者の利便性や需要と供給のバランスなどをバス事業者が総合的に判断のうえ決定しています。ご意見のとおり、アクセスの選択肢が広がれば利便性は向上しますが、一方で、バス路線を新たに開設し、運行を継続して行くためには、多くの方に利用していただき、採算性を確保する事が重要です。
③	1	折尾駅周辺をポイ捨てや歩きタバコ禁止の重点地区に指定して欲しい。	迷惑行為防止重点地区の指定については、第三者協議会の「限定的な範囲での指定」との答申や、巡視活動の実効性、経費の増加等の課題があり、当面は小倉都心・黒崎副都心において取り組むこととしています。 折尾駅周辺等その他の地区については、各種啓発活動により路上喫煙等の迷惑行為防止に取り組んでいきたいと考えています。

折尾地区総合整備事業における公共事業再評価の概要

1. 概要

折尾地区総合整備事業について、連続立体交差事業の事業費の増額に伴い、当初計画に変更が生じたため、北九州市公共事業評価システム要綱 第4条 第3項に基づき、再評価を実施するもの

2. 連続立体交差事業の事業費の増加とその対応

連続立体交差事業の事業費については、人件費や資材単価の高騰等による影響、現地の施工条件等を踏まえた工法の見直し等に伴い増加することから、全体事業費を約350億円から約487億円へ変更する必要が生じた。

連続立体交差事業を中心とする折尾地区総合整備事業は、まちを大きく変え、長期にわたる事業であるため、早期に整備効果を発揮していくことが重要である。

そのため、予定どおり連続立体交差事業、土地区画整理事業を完了させる。

街路事業については、連続立体交差事業や土地区画整理事業の完了とあわせて事業効果が発揮できるように駅周辺の幹線道路等を集中して整備を行う（区画整理区域内の道路も含め約8割完了）。

これらにより、H37年度の時点で、折尾地区総合整備事業は概成させる。

残りの街路事業（3.5km、123億円）については、今後整備する駅周辺の状況を踏まえ、再検討する。

（1）事業費

	当初(億円)	変更(億円)
	事業費 計	H16～ H37(概成)
連続立体交差事業 (JR九州負担含む)	350	487
連続立体交差事業 (市負担のみ)	315	440
街路事業	280	157
土地区画整理事業	196	196
合 計 (市負担のみ)	791	793
合計 (JR九州負担含む)	826	840

（2）事業内容

	現状	変更
連続立体交差事業	事業期間：H16年度～H34年度 事業延長：約4.5km	変更なし
街路事業	事業期間：H16年度～ 事業延長：約7.2km	事業期間：H16年度～H37年度(概成) 事業延長：約3.7km
土地区画整理事業	事業期間：H18年度～H37年度 施行面積：約16.9ha	変更なし

